

但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

◎受遺者ノ果實ヲ取得シ得ル時期（條文要旨）

◎受遺者ノ死亡ト遺贈ノ效力（條文要旨）

第一千九十五條

遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス果實ヲ收取スル爲メニ出シタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第一千九十七條

遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

◎遺贈ノ目的物ニ付テノ費用ノ償還（條文要旨）

◎遺贈ノ無効又ハ失效ト目的物ノ歸屬（條文要旨）

第一千九十六條

遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

第一千九十八條

遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セス但其權利カ相續財產ニ屬セサルコ

トアルニ拘ハラス之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

◎遺言者ニ屬セサル物ノ遺贈ノ效力

◎他人ノ物ヲ目的トスル遺贈ノ效力（民法六八一頁）

第一千百條

不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス
前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

◎不特定物ノ遺贈ト擔保義務（條文要旨）

第一千九十九條

相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價格ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百一條

遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス
遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ

混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

◎遺贈ノ目的物ノ滅失、附合又ハ混和 (條文要旨)

第一千百二條

遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

◎遺贈ノ目的ニ第三者ノ權利アル場合 (條文要旨)

第一千百三條

債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取りタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以

テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス
金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

◎遺贈債權ヲ遺言者カ受領シタル場合 (條文要旨)

第一千百四條

負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス
受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受ケヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

◎負擔附ノ遺贈ノ效力 (一) (條文要旨)

テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

◎遺言書ノ檢認及開封ニ關スル諸問

- ◎遺言書檢認ノ旨趣 (續民法一四一〇頁)
- ◎遺言書檢認ノ性質 (民法六八一頁)
- ◎遺言書ノ檢認ト其有效無效ノ判定 (民法六八二頁)
- ◎遺言書ノ開封ト立會人 (民法六八二頁)
- ◎檢認前ノ遺言書ノ效力 (民法六八二頁)
- ◎遺言書檢認ノ效果 (民法六八三頁)
- ◎民法施行前ノ遺言書ト檢認 (民法六八一頁)
- ◎遺言者死亡前ノ遺言執行ノ效力 (續民法一四〇七頁)
- ◎檢認後ニ於ケル遺言無效ノ確認訴訟 (續民法一四一一頁)
- ◎遺言無效ノ確認ト其利益 (續民法一四一一頁)

◎遺言書ノ開封ト立會ヲ要セサル場合

相續人カ故意ニ出頭セス又ハ代理人ヲモ出頭セシメサルモノナリト認メタル場合ニ於テハ裁判所ハ之等ノ者ノ立會ナクシテ遺言書ヲ開封スルコトヲ得 (民事局長回答一三年民事八四一一號)

第一千百五條

負擔附遺贈ノ目的ノ價格カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應ジテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

◎負擔附ノ遺贈ノ效力 (二) (條文要旨)

第四節 遺言ノ執行

第一千百六條

遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ
前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス
封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以

第一千零七條

前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

◎遺言書ノ提出ヲ怠リタル制裁(條文要旨)

第一千零八條

遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定テ第三者ニ委託スルコトヲ得
遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス
遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滞ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

◎遺言執行者ノ指定(條文要旨)

第一千零九條

遺言執行者カ就職ヲ承認シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

◎遺言執行者ノ就職(條文要旨)

第一千十條

相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

◎遺言執行者ニ對スル就職ノ催告(條文要旨)

第一千十一條

無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

◎相續人ハ遺言執行者ト爲リ得ルヤ(民法六八二頁)

第一千十二條

遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

◎遺言執行者ノ選任(條文要旨)

第一千十三條

遺言執行者ハ遲滞ナク相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

◎遺言執行者ト財産目錄ノ調製(條文要旨)

第一千十四條

遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權利義務ヲ有ス
第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

◎遺言執行者ト訴訟資格

一 遺言執行者タルヘキモノハ當該遺言ノ有效ヲ信スルモノニ限ルトノ法理モ明文モ存スルコトナケレハ其意思ニ依リ遺言ヲ無効ト思惟スル以上遺言無効確認訴訟ヲ提起シタリトテ遺言執行者ヲ解任スルノ理由ナキモノトス(大審昭和二年法二七五二號一〇頁)

二 遺言執行者ノ訴訟資格(民法六八三頁)
◎相續人ノ代理人タラサル遺言執行者(續民法一四二頁)

第一千百十五條

遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

◎本條ノ解釋

遺言執行者ノ管理權ハ目的タル相續財産ノ全部ニ及フモノニシテ其ノ相續人ノ有ニ歸スルモノタルト否トナ問サルカ故ニ遺言執行者アル場合ニハ相續人ハ自己ノ有ニ歸シタル相續財産ト雖又之ヲ處分スルノ權利ヲ有セサルモノトス而シテ茲ニ處分ト云フハ債務行爲ニ對シ物權行爲ヲ指スノ義ナルヲ以テ給付(例ヘハ貨料ノ支拂)受領ノ如キ固ヨリ之ヲ包含セラルルモノトス
(大審昭和二年法二七五二號一〇頁)

第一千百十六條

前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ

付テノミ之ヲ適用ス

◎前三條ノ適用上ノ注意(條文要旨)

第一千百十七條

遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

◎相續人ノ代理人タラサル遺言執行者(續民法一四二頁)

第一千百十八條

遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者テシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス
遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者テシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第五百條ニ定メタル責任ヲ負

フ

◎遺言執行者ト代理ノ許否

民法第一一八條ニ遺言執行者ハ第三者テシテ其任務ヲ行ハシムルヲ得ストアルハ第三者テシテ已ニ代理リテ其地位ニ就カシメ以テ遺言執行ノ事務ニ當ラシムルコト簡言スレハ遺言執行ノ權利義務ヲ擧ケテ他人ニ移スコトヲ禁シタルモノニ外ナラス萬般ノ事皆自ラ手ヲ下シテ之ヲ理メサルヘカラストノ意味ニ非サルカ故ニ或特定ノ行爲若クハ或範圍ノ行爲ニ付第三者ニ代理權ヲ授與スルハ固ヨリ妨クルトコロニ非ス唯夫ノ總代理人ノ如キハ之ヲ任設スルヲ得ス何者此種ノ代理權授與ハ遺言執行者タル地位ソノモノヲ得スト事實ニ於テ毫モ擇フトコロナケレハナリ
(大審昭和二年法二七五二號一〇頁)

第一千百十九條

數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

◎數人ノ遺言執行者ト任務ノ執行(條文要旨)

第一千百二十條

遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限リ之ヲ受クルコトヲ得
裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得
遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

◎遺言執行者ノ報酬(條文要旨)

第一千百二十一條

遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ

利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭
スルコトヲ得

◎遺言執行者ノ解任ノ請求（續民法一四一三頁）

第一千二百二十二條

第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務
ヲ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

◎任務終了ト應急處分及對抗條件（條文要旨）

第一千二百二十三條

遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺
留分ヲ減スルコトヲ得ス

◎遺言執行ノ費用ト其ノ負擔（條文要旨）

第五節 遺言ノ取消

第一千二百二十四條

遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部
ヲ取消スルコトヲ得

◎遺言ノ取消ニ關スル諸問

◎遺言ノ取消ニ關スル諸問（續民法一四一三頁）

◎詐欺強迫ニ因ル遺言ト承繼人ノ取消（續民法一四一四頁）

第一千二百二十五條

前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ
後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸ス
ル場合ニ之ヲ準用ス

◎遺言ノ默示ノ取消（續民法一四一四頁）

第一千二百二十六條

遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ
付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目
的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

◎遺言ノ默示ノ取消（其二）（條文要旨）

第一千二百二十七條

前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為カ取消
サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セ
ス但其行為カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

◎本條ニ所謂取消ノ意義（續民法一四一四頁）

第一千二百二十八條

第二續民法 相續 遺留分

一一二六條——一一三〇條

一一三三

遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

◎遺言ヲ取消ササル旨ノ特約ト拘束力（續民法一四一四頁）

第一千二百二十九條

負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキ
ハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ
履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

◎負擔附遺贈ノ義務不履行ト遺言ノ取消（續民法一四一五頁）

第七章 遺留分

第一千三十條

法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ

半額ヲ受ク
此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

◎本條ニ關スル諸問

◎遺留分ヲ害スル遺言ノ效力(第二續民法一〇六四條)

◎民法施行前ト遺留分(民法六八四頁)

◎相續開始前ニ於ケル遺留分ノ拋棄

遺留分ノ請求權ハ相續開始前豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス(法曹會決議一三年法曹會雜誌二卷四號八七頁)

第一千三十一條

遺產相續人タル直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク
遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

◎遺產相續人ノ遺留分(條文要旨)

第一千三十二條

遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス
條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム
家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

◎減殺額ノ算定ト負擔附贈與ノ場合

被相續人カ其死亡當時有セシ財産ハ價額金三八圓ノ不動産ノミナリシモ同人ハ其生前ニ於テ甲ニ對シ價額金八七八圓ノ不動産ヲ贈與シ乙ニ對シテハ價額金一二七三圓ノ不動産ヲ贈與シ而シテ其負擔セシ金八六二圓九三錢五厘ノ債務ハ受贈者ノ一人タル甲ヲシテ引受ケシメ(即チ甲ノ受ケタル贈與ハ負擔附贈與タル場合ニ於テ其相續人ノ遺留分ヲ算定スルニ當リ被相續人死亡當

二頁)

第一千三十四條

遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

◎遺留分侵害ノ意義(續民法一四一六頁)

◎登記ノ有無ト減殺請求權ノ行使(續民法一四一六頁)

◎遺留分減殺請求ノ方法(續民法一四一六頁)

◎不可分物ニ對スル遺留分ノ減殺權(民法六八五頁)

◎遺留分ノ減殺ト一定ノ申立及判決(民法六八五頁)

◎贈與減殺請求ノ當否ヲ判定スル標準(續民法一四一六頁)

◎遺留分ノ減殺請求權ノ性質

遺留分減殺請求權ハ法律行為ノ取消權若ハ解除權ト其性質ヲ圖フスル一種ノ形式權ナリトス(東京控一〇年評論一〇卷民法六二三頁)

◎贈與減殺請求ノ當否ヲ判定スル標準(續民法一四一六頁)

時有セシ財産ノ價額ニ甲乙ニ對スル贈與財産ノ價額ヲ加ヘタル外ニ受贈者甲ノ引受ケタル前記債務額ニ對應スル債務ヲ同人ニ對シ有スルモノトシ之ヲ合算シ以テ其遺留分額ヲ算出シタルハ民法第一一三二條ヲ不當ニ適用シタルモノナリトス(大審一一年民四五五頁)

第一千三十三條

贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

◎贈與ノ善意惡意ヲ區別スル標準時期

遺贈ニ因ル權利取得ノ場合ニ於テハ遺贈者ノ死亡後受遺者カ自己ノ利益ニ於テ遺贈アリタルコトヲ認識シタル時ヲ標準トシテ善意惡意ヲ區別スヘキモノトス(横田博士評論九卷民法一三〇

◎相續開始前ト遺留分ノ保全

一 相續人カ遺留分ニ對スル權利ナ有スルハ相續開始後ナルコトヲ要スルモノニシテ相續開始後ニ非サレハ遺留分ノ額ヲ知ルコトヲ得サルヲ以テ被相續人ノ爲シタル遺贈又ハ贈與カ遺留分ヲ害スルヤ否モ亦相續開始ノ時ニ至ラサレハ之ヲ定ムルコトヲ得サルモノトス故ニ相續開始前ニ於テハ相續人タルヘキ者ハ右ノ遺贈又ハ贈與カ遺留分ヲ害スルノ目的ニ出テタル場合ニ於テモ唯將來減殺請求權ヲ取得シ之ヲ行使スヘキ希望ヲ有スルニ過キスシテ未タ條件附ニモ減殺請求權ヲ有セサルモノナレハ贈與ノ目的物ニ對シ假處分又ハ假登記ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

(法曹會決議一五年法曹會雜誌四卷三號一〇七頁)

二 相續開始前ト遺留分ノ保全 (續民法一四一六頁)

◎遺留分ノ減殺請求權ノ拋棄

一 遺留分減殺請求權ハ相續權ト異ナリ法令ニ別段ノ規定ナキニヨリ私法上ノ一般原則ニ從ヒ權利者ニ於テ任意拋棄シ得ヘキモノトス(水戸地下妻支一一年評論一 卷民法二五九頁)

二 遺留分減殺請求權拋棄ノ效力 (續民法一四一六頁)

◎遺留分ノ減殺請求ノ對手

減殺請求權ハ財產ヲ留保シ隱居者ニ對シテ之ヲ行使スルコトヲ

要スルモノトス (東京控一〇年評論一〇卷民法八五六頁)

◎遺留分ノ減殺ト目的物ノ選擇權

一 贈與ノ一部ニ付キ減殺請求ヲスル場合ニ目的物カ數箇存スルトキハ權利者ハ減殺シ得ヘキ部分ノ目的物ヲ適當選擇シ以テ其返還ヲ請求シ得ルモノト解スルヲ相當トス (東京控一〇年評論一〇卷民法六二四頁)

二 遺留分ノ減殺ト目的物ノ選擇權 (續民法一四一六頁)

◎遺留分減殺ノ訴ト管轄指定ノ拒否

遺留分減殺ノ訴ハ遺留分ヲ害シタル限度ニ於テ遺贈又ハ贈與ノ目的タル財產ノ返還ヲ求ムル訴ナレハ民事訴訟法第二十二條ニ揭ケタル不動産上ノ訴ニ非ス又同法第二十三條第一項ニ揭ケタル債權ノ訴ニ非サルハ勿論同條第二項ニ規定シタル不動産ノ所有者若ハ占有者ニ對スル人權ノ訴ニ非スト謂ハサルヲ得ス加之同法第二十六條ニ不動産カ數箇ノ管轄區内ニ散在スト云フハ法律上一箇ノ不動産カ事實上數箇アリテ數箇ノ管轄區内ニ存在スル場合ヲ云フモノニシテ遺留分減殺ノ訴ニ於テ返還ヲ求メントスル不動産カ事實上數箇アリテ數箇ノ管轄區内ニ存在セリトスルモ法律上一箇ノ物ヲ構成セサルモノトス然ラハ本件ハ管轄裁判所ヲ指定スヘキ場合ニ該當セサルヲ以テ申請ヲ理由ナシトシ主文ノ如ク決定(却下)ス (大審一三年民二五一頁)

第一千三十五條

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第一千三十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受贈者ニ給付スルコトヲ要ス

◎不確定ナル權利ト遺留分ノ算定 (條文要旨)

第一千三十六條

贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

◎隱居ニ因ル留保財產ト減殺ノ順序

民法第一一三六條第一一三八條ニハ遺留分保存ノ爲メノ減殺請求ハ遺贈ヲ先ニシ贈與ヲ後ニシ又贈與ニ付テハ後ノ贈與ヨリ始メ順次前ノ贈與ニ及フヘキ旨ノ規定アルモ隱居ニ因ル留保財產

第一千三十七條

遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

◎遺贈ノミノ減殺ト其ノ順序 (條文要旨)

第一千三十八條

贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

◎贈與ノミノ減殺ト其ノ順序 (條文要旨)

第一千三十九條

受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

◎贈與ノ減殺ト果實返還ノ義務(條文要旨)

第一千四十條

減殺ヲ受ケヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

◎被減殺者ノ無資力ト損失負擔ノ歸屬(條文要旨)

第一千四十一條

負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

◎負擔附贈與ノ減殺方(條文要旨)

第一千四十二條

不當ノ對價ヲ以テ爲シタル有價行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

◎惡意ノ有價行爲ト其ノ減殺(條文要旨)

第一千四十三條

減殺ヲ受ケヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

◎遺留分權利者ノ請求權(民法六八五頁)

第一千四十四條

受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受ケヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得
前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎減殺ニ代ハル價額ノ辨償(條文要旨)

第一千四十五條

減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

◎遺留分ノ減殺請求權ノ時効

民法第九百八十八條但書ニ「家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス」トアル意味ハ留保ヲ爲ス際ニハ家督相續人ノ遺留分ハ之ヲ害スルコトヲ得サルモノニシテ若シ之ヲ害シタル場合ニハ遺留分ニ關スル規定ニ則リ減殺請求權ニ服セサルヘカラサルハ勿論此減殺請求權行使ノ方法、效力、範圍及時期等ニ付テモ從テ遺留分ニ關スル規定ニ據ルト云フニ外ナラサルコトハ多言ヲ俟タサルヲ以テ從ヒテ留保ノ場合ニ於テモ其ノ減殺請求權ハ又民法第一千四十五條所定ノ一年ノ時効ニ罹ルモノト解スヘキハ當然ナリ(大審一二年民二五九頁)

◎減殺請求權ノ時効ト起算點(續民法一四一八頁)

第一千四十六條

第九百九十五條、第一千四條、第一千五條、第一千七條及ヒ第一千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

◎代承相續及相續分等ノ準用(條文要旨)

附 則 (明治三十五年法律第三十七號)

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直系卑屬カ意思能力ヲ有セサルトキハ法定代理人之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得
本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二續民法 完

補 遺

第四條 [未成年者ノ行爲能力]

◎民法前滿八歲ノ少年ト貸借

滿八歲ニ達スル者ハ民法施行前ニ在リテハ貸借ニ關シ意思能力ヲ有スル者ト認定スルヲ相當トス(東京控昭和二年法二七三二號一〇頁)

◎滿八歲ノ幼者ト意思能力竝無効行爲ノ追認ト其效力(判例研究四卷一〇號研究篇七三問四九七頁)

第八十五條 [物ノ意義]

第二續民法 補遺

四條——八六條

1311

◎分筆セサル土地ノ一部讓渡ノ效力(第二續民法二〇六條)
◎將來取引上ノ獨立性ヲ認ムヘキ物(第二續民法二〇六條)

第八十六條 [動產ト不動產ノ種別]

◎稻立毛ノ性質

土地ニ生立スル稻毛ハ土地ニ附著シ土地ト一體ヲ成スモノニシテ土地ト離レテ獨立ノ存在ヲ有スヘキニ非サレハ民法ノ觀念ニ於テハ稻立毛ハ土地ヨリ分離セサル限リ土地ノ成分ニシテ動產ト看ルヘキモノニ非サルハ勿論獨立シテ權利ノ目的物ト爲ルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス(大審昭和二年法二七四八號九頁)

◎五戸建長屋ノ一戸ト法律上可分物

賣買ノ目的タル建物カ五戸建長屋ノ東方二戸分ニ該當シ壁ヲ以テ各戸區劃ヲ爲シ最東端ノ一戸ニハ甲カ居住シ其西隣ノ一戸ニハ乙ノ所有物件カ格納シアル場合ニ於テハ其各一戸ハ經濟上獨立シテ建物トシテノ效用ヲ爲シ得ヘキヲ以テ法律上可分物ナリト解釋シ得ヘキモノトス(徳山區二五年評論一五卷民法八六頁)

第九十條 [公序良俗ニ反スル行爲ノ效力]

○注文者ノ相當ト認ムル金額ノ意義(第二續民法六三二條)
○仲買店ノ外交員ト委託者代理ノ商慣習(第二續民法六四三條)

◎權利ノ行使ニ制限ヲ附スル契約ノ效力

當事者カ權利ノ行使期間ヲ制限シ一定ノ期間内ニ請求セザルトキハ其權利ハ始ヨリ成立セザルモノトシ又ハ當然消滅スヘシト定ムルコトハ苟モ權利ノ本質若クハ公序良俗ニ反セザル限り之ヲ爲シ得ルモノト決スルヲ相當トス(東京控昭和二年判例彙報三八卷民下三一四頁)

○所有權ノ處分ニ制限ヲ附スル特約(第二續民法二〇六條)
○權利保護ノ請求ト契約上制限ノ效力(第二續民法九〇條)

第九十二條 [法規ト異ナル慣習ノ效力]

◎越後地方ノ玄米先賣ノ慣習ト其判示

新潟縣下越後地方ニハ玄米生産者タル地主即倉元カ其年ノ秋收ヲ見越シ賣券即賣渡證ヲ發行シテ米穀商ニ玄米ノ先賣ヲ爲シタ

◎重過失アル者ト惡意相手方トノ關係

本件賣買契約ノ要素ニ錯誤アリタルコトハ固ヨリ表意者タル控訴人ノ輕卒ノ致ス所ニシテ苟クモ家屋ヲ所有スル爲メ他人ノ所有ニ在ル家屋ヲ買受クル者ニトリテハ其ノ家屋ヲ買受クルニ方リ敷地ノ借地關係ヲ調査スヘキヲ常トシ控訴人ニ於テ相當ノ注意ヲ拂ハンカ容易ニ本件家屋ノ敷地ニ關スル借地關係ヲ知ルコトヲ得ヘカリシモノナルカ故ニ前示要素ノ錯誤ハ表意者タル控訴人ノ重大ナル過失ニ基クモノト認ムルヲ憚ラス是ヲ以テ一見控訴人ハ自ラ被控訴人ニ對シテ法律行爲ノ要素ノ錯誤ニ因ル本件賣買契約ノ無効ヲ主張シ難キニ似タリト雖モ各證據ヲ綜合考慮シ本件賣買契約締結ノ當時既ニ被控訴人ニ於テ地主高橋作次郎トノ間ニ本件家屋ノ敷地明渡請求訴訟カ繫屬中ニシテ而モ地主カ何人ニモ該敷地ヲ貸與セザルヘキ關係ニ在ルコトヲ熟知セル事ヲ認ムルニ足ルヘキ事實ヲ參酌スルトキハ被控訴人ハ本件賣買契約ノ締結ニ方リ控訴人カ本件契約ノ要素トナレル本件家屋ノ敷地ヲ地主ヨリ借受ケ得ヘキ事情ニ付キ錯誤ニ陷レルコトヲ知リテ本件賣買契約ヲ締結シタル事實ヲ觀取スルニ難カラサルヲ以テ控訴人ハ縱令重大ナル過失ニ基キテ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキト雖モ右說示ノ如キ惡意ノ相手方タル被控訴人ニ對シテ所謂要素ノ錯誤ニ因ル本件賣買契約ノ無効ヲ以テ對抗スルコトヲ妨ケサルモノトス(大阪控昭和二年法二七四九號五頁)

ル場合ニ於テハ手附金ノ倍額ヲ償還スルモ賣買契約ヲ解除スルコト能ハサル商慣習アリトセンニハ前提トシテ其實券カ輾轉流通スル性格ヲ有シ其所持人ハ當然賣買契約ニ於ケル買主ノ權利義務ヲ取得スヘキ商慣習アルコトヲ判示セザルヘカラス(大審一五年法拾遺一ノ民七七頁)

◎貨物引換證ノ無効ナル場合ノ商慣習

貨物引換證ヲ發行シタルトキハ其證券カ法律上ノ要件ヲ缺キ無効ナル場合ト雖運送人ハ其證券ト引換ニアラサレハ貨物ノ引渡ヲ爲スヘカラサル慣習運送業者間ニ存ス(大審昭和二年判例彙報三八卷民事下三八四頁)

第九十四條 [意思表示ノ不一致(虛偽表示)]

○賣渡擔保ト買展契約トノ關係(第二續民法五七九條)

第九十五條 [意思表示ノ不一致(錯誤)]

○辨濟行爲ト要素ノ錯誤(第二續民法四七四條)

第九十七條 [隔地者間ノ意思表示ノ發效時期]

◎債權讓渡通知ト隔地者ノ意思表示(第二續民法四六七條)

各事實ニ乙第四號證所載ノ福田秀一ノ供述ヲ綜合シ之ヲ考察スルトキハ同年(大正十三年)四月三日前示秀一ヨリ發送ニ係ル債權讓渡通知書封入ノ書留内容證明郵便物ノ配達アリタル際被控訴人ハ妻ヲシテ其受領ヲ拒絕セシメタルモノナルコトヲ推認スルニ難カラサルヲ以テ其通知カ右月日ニ被控訴人ニ到達シタルモノト爲ス控訴人ノ主張ハ其疏明アルモノト認ムヘキ被控訴人ハ前示内容證明郵便物ハ六月十一日ノ受領以前ニ於テハ被控訴人ノ實力ノ範圍ニ入ラス從テ被控訴人ニ於テ右通知ヲ了知シ得ヘキ狀態ニ在ラサルモノトシテ之カ受領ヲ拒絕シタル被控訴人妻ハ其發行人ノ何人ナルヤチモ知ラザリシモノナルカ故ニ被控訴人ニ到達アリタルモノト爲スコトヲ得スト論争スルモ郵便物カ受領人ノ住居ニ配達セラレタルニ拘ラス正當ノ理由ナク受領人之力受領ヲ拒絕スルニ於テハ意思表示ノ到達アリタルモノトシ其效力ヲ認ムヘキ者ニシテ我民法ニ於テ隔地者間ノ意思表示

ノ效力發生時期ヲ定ムルニ付表意者及相手方ノ利益ヲ平等ニ保護シ取引上ノ需用ニ適セシムル爲受信主義ヲ採用シタル立法ノ精神ニ徴シ右ノ如ク解スルチ正當ト爲スヘシ又被控訴人妻力前示郵便物ノ受領ヲ拒絶スル際シ其發信人ノ誰ナルヤチ知ラザリシトノ主張ニ付テハ前認定ノ如ク四月三日以後連日幾回トナク其受領ヲ促シタル事實ニ徴シ且集配人カ郵便物配達ノ際ニハ其受領ヲ拒絶セラレルニセヨ一旦其郵便物ヲ受信人方ノ者ニ示シ受領ヲ求ムルチ以テ通例ト爲スカ故ニ右被控訴人ノ主張ハ到底是認スルコトヲ得サルモノトス(宮城控昭和二年報一三七號一八頁)

◎到達ノ妨害又ハ住所ノ不明ナル場合(第二續民法九七條)

◎不法行爲ニ因ル債務ト付遲滯(第二續民法七一〇條)

◎郵便物受領ノ拒絶ト意思表示ノ效力(補遺九七條)

第九九條 (表見代理)

◎仲買店ノ外交員ト委託者代理ノ商慣習(第二續民法六四三條)

第三百三十五條 (期限到來ノ效果)

ハナリ(當院明治三十四年(オ)第四百七號同年十一月二十八日判決參照)加之原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被告上告人ハ本件手形ノ引受ヲ爲スニ當リ支拂場所チ株式會社光正銀行ト附記シタルモノニ係ル而シテ銀行條例第六條ニ依レハ銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄ナルチ以テ本件手形ニ付テハ滿期日タル大正十一年十一月二十五日ノ午前九時以後始メテ支拂場所タル銀行ニ於テ被告上告人ニ對シ有效ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ得ヘク其ノ以前ニ於テ支拂ヲ求メ得ヘキモノニ非サレハ時効期間ニ付テモ其ノ初日タル滿期日ノ午前零時ヨリ進行ヲ始ムルニ由ナキモノト爲ササルヘカラス(大審一五年民六八七頁)

第四百四十七條 (時效中斷ノ原因)

◎相殺ノ意思表示ト時效中斷ノ事由(第二續民法五〇六條)

◎各共有者ト持分ノ時效中斷(續民法一四五〇頁)

◎保證債務ト時效トノ關係(第二續民法四五七條)

◎本條ノ裁判上請求ニ該當セサル場合

民法第四百十九條ノ裁判上ノ請求ハ給付ノ訴タルト確定ノ訴タルトハ之ヲ問ハスト雖少トモ時效ノ進行シツツアル權利ヲ目的

◎期限ニ關スル問題ニ付テハ第四一二條チモ參照

第四百十條 (期間ノ起算點)

◎利息ノ支拂ト貸付當日ノ算入(第二續民法五九〇條)

◎引受人ニ對スル手形債權ノ時效起算日

商法第四百四十三條ニ依レハ爲替手形ノ引受人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リ消滅スヘシト雖同條ハ手形債權ノ時效期間ニ關スル特別規定タルニ止ルチ以テ其ノ期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ニ依ルヘキモノトス而シテ同條ニ依レハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス例外トシテ期間カ午前零時ヨリ始マル場合ニ於テノミ初日ヲ算入スヘキモノナルチ以テ爲替手形ノ引受人ニ對スル債權ノ時效期間三年ヲ計算スルニ付テハ其ノ初日タル滿期日ハ之ヲ算入セス其ノ翌日ヨリ之ヲ計算セサルヘカラス蓋手形所持人ハ滿期日ニ於テ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ得ヘキモノナルモ手形所持人カ手形上ノ權利ヲ行使シ得ルハ滿期日ニ於ケル取引時間ノ初刻以後ナルニ付其ノ消滅時效ハ民法第六十六條ニ依リ同日ノ取引時間ノ初刻ヨリ進行スヘキモノニシテ午前零時ヨリ進行スヘキモノニ非サレ

トシテ裁判上權利保護ノ要求ノ爲サレタル場合ナルコトヲ要スルヤ論ヲ俟タス而シテ時效ノ目的タル權利ヲ確保スル爲所謂買渡擔保ヲ供シ該物件チ更ニ債務者ニ於テ貸借シタル場合ニ於テ債權ノ辨濟ナキノ故チ以テ擔保物チ處分シ之カ辨濟ヲ得ンカ爲メ債務者ニ對シ該物件ノ引渡ヲ請求スルカ如キハ辨濟ノ確保セラレタル權利其ノモノニ付何等裁判上ノ請求ヲ爲スモノニ該當セサルモノトス(大審昭和二年法二七七一號一四頁)

第六十條 (相續財產ニ關スル時效ノ停止)

◎相續人未定ノ相續財產ト時效(第二續民法一〇一七條)

第六十二條 (取得時效ノ要件)

◎占有者ノ過失有無ノ判定(第二續民法一八六條二七〇頁)

◎所有ノ意思ヲ以テスル占有

甲カ明治十五六年頃其名義チ以テ乙土地ノ村稅ヲ納付シ居リマ

ル事實アルトキハ甲ニ於テ該土地ヲ所有ノ意思ヲ以テ占有シ居
リタルコトヲ認定シ得ルモノニシテ假令甲カ右地租ヲ丙名義ヲ
以テ納付シ居リタル事實アリトスルモ丙ニシテ舊幕時代ニ世ヲ
去リタルモノナルニ於テハ甲ニ所有ノ意思アルコトヲ認定スル
ノ妨ト爲ラサルモノトス(東京地昭和二年評論一六卷民法五八
一頁)

◎無過失ノ顯著ト立證不要

無過失ノ事實ハ時効ノ利益ヲ援用スル者ノ立證スヘキ事項ナリ
ト雖モ無過失ナルコトカ顯著ナル場合ニ於テハ立證ヲ竣タスシ
テ之ヲ認ムルニ妨ナキモノトス(大審九年民六二六頁)

第六六十三條 [時効取得ノ要件(所有權以外)]

◎利息債權ト取得時効(續民法一〇五九頁)

第六六十六條 [消滅時効ノ起算點]

◎引受人ニ對スル手形債權ノ時効起算日(第二續民法補遺一四

○條)

第六六十七條 [十年又二十年ノ時効]

◎後見ニ關スル債權ト時効(第二續民法九四二條)

第六七十六條 [物權ノ設定移轉ト當事者ノ效力]

◎競落ト所有權移轉時期

抵當權實行ノ爲ニスル競賣ノ場合ニ於テ抵當權ノ目的物ノ所有
權ハ競賣代金納付ノ時競落人ニ移轉スルモノトス(平區一三年
評論一三卷民法七四六頁)

◎選擇權行使ノ效力(第二續民法四〇七條)

第六七十七條 [第三者ニ對スル物權ノ得喪變更ノ效力]

- ◎假裝登記存續ノ特約ト公序良俗(第二續民法九〇條)
- ◎推定地上權ト對抗要件(第二續民法二六五條)
- ◎假裝登記存續ノ特約ト公序良俗(第二續民法九〇條)
- ◎抵當登記抹消ノ法律上ノ利益(第二續民法抵當權消滅ノ節下)

第七十八條 [動産ノ讓渡ト第三者ニ對スル效力]

◎荷爲替附賣買ト所有權移轉ノ時期

荷爲替付ニテ賣買物件ヲ發送シタル場合ニ於テハ反證ナキ限り
買主ニ於テ荷爲替手形金ヲ支拂ヒ貨物引換證ヲ受領シ運送人ヨ
リ之ト引換ニ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキ初メテ賣買物件ノ所有
權買主ニ移轉スルモノト認ムヘク從テ買主ニ於テ右手續ヲ履踐
セサル以上所有權ハ賣主ニ存スルモノトス(東京地一一年評論
一一卷商法五七一頁)

◎家屋ノ所有者ト敷地ノ占有

一 土地ニ定著セル家屋ノ所有ハ必然的ニ該家屋ノ存在スル範圍
ニ於テ其ノ敷地ヨリ利益ヲ受ケ之ヲ使用ヲ妨ケ其ノ占據ヲ伴フ
モノナルヲ以テ該家屋ノ存在自體ニ依リ之ヲ通シテ家屋所有者
ハ家屋所在宅地ヲ占據スルモノト認ムルヲ至當トス(長崎控一

五年評論一六卷民法四四六頁)

二 家屋ノ占有ト敷地ノ占有(民法九八頁、續民法九三八頁)

第二百五條 [準占有ニ準用スヘキ規定]

◎債權ノ準占有者ノ意義(第二續民法四七八條)

第二百二十三條 [土地ノ疆界權]

◎賃借人ト疆界確定ノ請求權(第二續民法六〇一條)

第二百五十一條 [共有物ノ變更]

◎共有地ノ抵當權ト地上權トノ關係

抵當權者カ甲乙共有ノ土地ニ對シ抵當權ヲ有スルトキハ其ノ抵
當權ハ甲乙共有者ノ各持分ニ對シ抵當權ヲ有スルモノナレハ土
地全體ニ付キ抵當權ヲ實行スルト甲又ハ乙ノ持分ニ對シテノミ

抵當權ヲ實行スルトハ其ノ隨意ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ其ノ共有地ノ上ニ抵當權設定後地上權カ設定セラレアルトキハ若シ其土地全體ニ付キ抵當權ノ實行アルモノトセハ地上權ハ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サル結果競落ニ因リ全部消滅スヘキモノナレハ甲ノ持分ニ對シテノミ抵當權ノ實行アルトキハ甲ノ持分ニ對スル地上權ノミ消滅シ未タ實行アラサル乙ノ持分ニ對スル地上權ノミ殘存スルモノノ如シ然レトモ地上權ハ他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其土地ヲ使用スル權利ニシテ共有地ノ持分ニ對シテハ獨立シテ地上權ヲ設定スルコトヲ得ス若シ共有地全體ニ對シ之ヲ設定セントセハ他ノ共有者ノ權利ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ乙ノ持分ノミニ對シテ地上權ヲ存續セシムルコトヲ得ス從テ甲ノ持分ニ對スル地上權カ競落ニ因リ消滅スルノ結果トシテ共有地ノ地上權ハ全部消滅スルモノト解セサルヲ得サルナリ (地役權ニ關スル民法第二百八十二條參照) (法曹會決議一二年法曹會雜誌一卷二號一〇六頁)

第二百五十五條 [共有權ノ歸屬]

◎共有者ノ死亡又ハ持分拋棄ト其ノ登記(第二續民法一〇〇二條)

第三百七十三條 [抵當權ノ順位]

◎抵當權ノ實行ト不動産質權ノ運命(諸法令上卷一八〇頁)

第三百八十八條 [抵當物件ノ競賣ト法定地上權]

◎借地權消滅後ノ建物競落ト借地權(ナシ) (第二續民法六二〇條)

第三百九十二條 [競賣代價ノ配當及次位抵當權者ノ代位]

◎競賣手續ト代位辨濟トノ關係(諸法令上卷二一六頁)

第四百一條 [給付行爲完了ノ意義及實例]

◎賣主ニ目的物變更ノ權利アリヤ(第二續民法五七三條)

第四百十二條 [債務者ノ遲滯ノ時期]

◎故意ニ因ル遲滯ト免責特約ノ效力(第二續民法五七二條)
◎約定期日ニ完成セサル請負人ノ遲滯(第二續民法六三三條)

第四百十四條 [強制履行ノ請求權]

◎選擇扶養義務ノ性質ト強制履行(續民法一三四九頁)

第四百十五條 [損害賠償ノ原因]

◎故意ニ因ル遲滯ト免責特約ノ效力(第二續民法五七二條)

◎第三者ノ過失ト債務者ノ責任

一 凡ソ契約上ノ義務履行ニ付キ他人ヲ使用スル場合ニ於テ被用

者ノ過失ハ使用者ノ過失ト同視セラレ使用者ニ於テ其責ニ任ス可キコト當然ナレハ其選任監督ニ付キ過失ナカリシ事由ヲ主張シテ其責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス(東京控八年評論八卷民法八〇八頁)

二 債務者ハ債務履行ノ爲メニ使用スル第三者ノ過失ニ對シテ其責ニ任スヘキヤ否ヤ法典ニハ此點ニ關スル明文ナシ然レトモ元自己ノ利益ノ爲メニ他人ヲ使用スルモノナルカ故ニ若シ其他人ノ過失ニ因リテ不履行ヲ生スルトキハ債務者自ラ其責ニ任スヘキナ原則トセサルヘカラス(岡松博士債權總論京都法政講一四三頁)

附、債務者ハ其債務履行ニ就キ他人ヲ用ユルコトヲ許サレタルコトヲ要ス若シ權利ナクシテ他人ヲ用ユルトキハ之レ既ニ債務ノ不履行ナリ是ニヨリ生スル總テノ結果ヲ負擔スヘシ(同上三四四頁)

第四百六十六條 [債權讓渡ノ自由]

◎電話ノ讓渡性

凡ソ差押ハ未タ適法ニ差押フルコトヲ得サル目的物ニ對シテ爲

サレタル場合ト雖之カ爲當然無効トナルコトナク其ノ取消ナキ限リ依然トシテ差押ノ效力ヲ持續シ唯其ノ目的物ヲ適法ニ讓渡シ得ル時期ノ到來スルマテ爾後ノ強制執行手續ヲ續行スルコトヲ得サルニ過キサレモノトス然ルニ今本件ニ付原院ノ確定セル事實ヲ見レハ訴外上尾友吉名義ノ本件電話加入權ハ大正十年八月十一日電話規則第十一條第五號ニ依リ開通シタルモノニシテ上告人ノ申請ニ因リ福岡區裁判所カ大正十三年八月二十七日其ノ差押命令ヲ發シ大正十五年九月二十五日該命令ニ基キテ右加入權ノ讓渡命令ヲ發シ右兩個ノ命令ハ何レモ其ノ當時上尾友吉及第三債務者タル被上告人ニ送達セラレタルモノナリ故ニ右電話ハ電話規則第十二條及電話至急開通規則第十六條ニ依リ其ノ開通後五年内ハ所轄通信局長ノ許可ナキ限リ其ノ加入名義又ハ電話機設置場所ヲ變更シ得サルモノニシテ前記差押命令ハ右禁止期間中發セラレタルモノ其ノ後取消サルコトナク前記讓渡命令ハ右禁止期間經過後該差押命令ニ基キテ發セラレタルモノナリサレハ其ノ讓渡命令ハ他ニ之ヲ無効トスヘキ原因ナキ限リ有效ナリト云ハサルヘカラサルニ拘ラス原判決カ前記差押命令ハ右禁止期間中ニ發セラレタルモノナルカ故ニ當然無効ニシテ之ニ基ク右讓渡命令モ亦無効ナルモノトナシ其ノ有效ナルコトヲ前提トスル上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ即法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノトス(大審昭和二年民五七四頁)

◎取立ヲ目的トスル債權讓渡ト信託法

證人ノ供述並ニ甲第一號證ノ記載ト原告カ辯護士ニ非スシテ常ニ他人ノ爲メニ訴訟行爲ヲナシ居ルモノナルコトノ當裁判所ニ顯著ナル事實トテ彼是參酌スルトキハ本件讓渡ハ取立ノ爲メ訴訟ヲ爲サシムルコトヲ目的トシテ爲サレタル所謂信託讓渡ナリト認ムルヲ以テ相當トスヘク右讓渡行爲ハ信託法第十一條ニ違背スル法律上無効ノモノナリトス(橫濱地昭和二年法二六六五號一五頁)

◎取立ヲ目的トスル債權讓渡ト信託法(第二續民法四六六條)

◎禁轉手形ト債權讓渡ノ有效

一 商法第四五五條ノ裏書禁止ノ手形ハ手形トシテノ流通性ヲ缺キ通常ノ指名債權ニ變スルモノナルコトハ洵ニ所論ノ如シト雖モ夫レカ爲メ指名債權トシテ通常ノ手續ニ從ヒ之カ讓渡ヲ爲スヲ妨グルモノニアラス故ニ該手形ノ所持人トシテ裏書ノ形式ニ依リ之ヲ他ニ轉讓シタル場合ニ於テハ其裏書ハ無効ナリト雖モ眞實讓渡ノ意思ヲ以テ爲サレタルモノナルトキハ民法第四六七條ニ依リ讓渡人ヨリ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者力之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ止リ當事者間ニ於テハ債權讓渡ノ效力ヲ生シ讓渡人ハ之カ權利者トナリタルモノトス(大審一四四年法二四二一號一六

二 禁轉手形ト債權讓渡ノ有效(續民法一一五七頁)

◎石材採取權ノ讓渡ニ伴フ土地使用權

石材ノ賣買ヲ約シ之カ採掘ヲ爲スノ必要上買主ニ土地ノ使用ヲ許容シタル場合ニ石材採取權カ讓渡サレ其ノ讓渡ノ通知カ確定日附アル證書ヲ以テ爲サレタルトキハ土地使用權ハ自然讓渡ノ效力ヲ生シ又何人ニモ之ヲ對抗シ得ヘク特ニ確定日附アル證書ヲ以テ債務者タル賣主ノ承諾ヲ得ルノ必要ナキモノトス(大審一四年評論一五卷民法一九九頁)

◎債權讓渡ト附帶約款ノ承繼(第二續民法四六六條)

第四百六十七條 (指名債權ノ讓渡ト對抗要件)

◎民訴六九八條六三三條ト本條トノ關係

民事訴訟法第六九八條第六三三條ノ規定ハ實體法上ノ權利ノ存在ヲ前提トシ他ノ債權者ニ對シテ異議ヲ主張シ得ヘキコトヲ定メタルニ過キサレモノナレハ之ヲ以テ民法第四六七條ノ規定ヲ解釋スルノ資料ト爲スニ足ラサルモノトス(大審八年評論八卷民法七七五頁)

◎債權讓渡通知ノ效力發生時期

一 債權讓渡ハ當事者間ニアリテハ該讓渡行爲ノミニヨリテ效力ヲ有スルコト勿論ニシテ只該債權讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルカ爲メニハ讓渡人ヨリ債務者ニ對シ讓渡シタル旨ノ通知ヲ爲スカ若クハ債務者ニ於テ讓渡アリタル事實ヲ承諾スレハ足リ對抗要件ノ具備スルニ於テ始メテ債權者トナルノ意ニ非ルコト自ラ明カナルトコロナリトス從テ債權讓渡アリタルモ債務者ニ其通知ヲ爲ササル間ハ之ヲ對抗スルコトヲ得サルモノナルモ其後對抗要件ノ具備スルニヨリテ債權讓渡ハ何人ニモ對抗シ得ルニ至リ對抗シ得ル時期ニ付キテハ抗告人主張ノ如ク通知ヲ爲シタル以後ニ於テノミ對抗スルコトヲ得ト爲スハ妥當ナラス蓋シ前述ノ如ク對抗要件ノ具備ハ讓受人ヲ債權者タラシムルモノニ非サルハ勿論又ハ債務者ハ特別ノ事情ナキ限リ通知前ノ事項ト雖モ對抗シ得ラルルト爲スモ特段ノ損害ヲ蒙ルコトナケレハナリ只法ハ此點ニ關シ對抗要件具備前ノ債務者ノ權利保護ノ爲メニ讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止ルトキハ債務者ハ右通知ヲ受クルマテニ其讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ新債權者タル讓受人ニ對抗スルコトヲ得ルモノト爲シタルニ過キス(福岡地一五年法二七〇四號六頁)

二 債權讓渡通知ノ發効時期(續民法一一六四頁)

第四百八十四條 [辨濟ノ場所]

◎到着値段ノ賣買ト引渡場所(第二續民法五七四條)

第四百八十八條 [當事者ノ意見ニヨル辨濟ノ充當]

◎内入辨濟ト充當ノ當否

一 本件消費貸借契約ヨリ生シタル債務(金五百圓)ノ辨濟トシテ金百五十圓ノ受授アリタルコトハ雙方爭ナシ而シテ原告ハ右金百五十圓ヲ利息ニ充當シ次ニ殘金ヲ元金ニ充當シタルト主張スレトモ右金員ノ受授ニ關シテハ其アリタル日時ニ關スル何等ノ主張ナキヲ以テ果シテ右金員ノ受授アリタル日時迄ニ幾何ノ利息債權發生シ居リタルヤ之ヲ知ルニ由ナク從テ原告力之ヲ先ツ利息ニ充當シタルトノ主張ハ雙方ニ爭アルヲ以テ之ヲ肯定スル能ハス然レトモ右金員ハ本件元金債權ニ充當シタルトノ被告等ノ主張ハ其ノ立證ナシト雖右主張ヲ肯定スルニ非サレハ原告ノ本訴請求ハ其ノ主張及立證ノ不足竝欠缺ノ爲其ノ金額不明ノ

結果ニ歸シ其ノ請求ヲ棄却セサルヘカラサルニ至ルヲ以テ被告等ノ右主張ヲ原告ノ利益ニ採用シ前掲金百五十圓ハ其ノ元金債權ニ充當セラレタルモノト推斷ス(大分區一五年法二六四二號六頁)

◎右ノ批評、判例研究第四卷三號研究篇一〇問六四頁「内入辨濟ノ當否」參看

二 内入金辨濟ノ事實ヲ認ムルニ當リテハ元利何レニ充當セラレタリヤヲ判定スルニアラサレハ本件公正證書ノ執行力ノ限定ハ遂ニ之ヲ確定スルニ由ナキモノトス(大審一五年法拾遺一ノ民八六頁)

第四百九十三條 [辨濟提供ノ方法]

◎相手方ノ不在又ハ不出頭ト履行ノ提供

一 賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ一方ノミカ該期日ニ自己ノ義務履行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ

提供ヲ爲シ得サルヘキハ勿論ナレハ斯カル場合ニハ其ノ一方ノ當事者ハ自己ノ遲滞ノ責任ヲ免ルヘキ有效ナル履行ノ提供ヲ爲シタルモノト爲シ相手方ニハ遲滞ノ責任發生スルモノト解釋スルヲ相當トス(朝鮮高等法院一一年司法協會雜誌一卷一一號六六頁)

◎履行ノ資力ナキ者ノ履行請求ノ效力(民法三〇八頁)

二 本件ニ於テ原審ノ確定セル所ニ依レハ當事者間ニハ大正一年一月二七日土地所有權移轉登記手續履行ト同時ニ土地代金ヲ支拂フヘク其支拂場所ハ前示出張所ト定メ若シ一方ノ當事者カ義務ヲ履行セサルニ於テハ賣買契約ハ當然解除セラレ其當事者ハ遲滞ノ責任スヘキコトヲ約定シ被告上告人ハ右期日ニ殘代金及登記費用トシテ金五千圓ヲ準備携帶シテ同出張所ニ出頭シタルニ上告人ハ出頭セザリシト云フニ在ルヲ以テ之ヲ叙上ノ説明ニ照サハ上告人ニハ義務不履行アリ被告上告人ニハ義務履行ノ提供アリシト爲スヘキモノニシテ原審判決理由中ニ控訴人ハ自己ノ債務ノ履行ニ付キ正ニ爲スヘキ行為ノ全部ヲ完了シタルニ拘ラス控訴人ニハ債務不履行アリタルモノト論斷セザルヲ得スト

◎第三者ノ爲ニスル他人ノ物ノ賣買

◎右ノ批評、判例研究第四卷三號研究篇一〇問六四頁「内入辨濟ノ當否」參看

一 賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ一方ノミカ該期日ニ自己ノ義務履行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ

◎第三者ノ爲ニスル他人ノ物ノ賣買

一 賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ一方ノミカ該期日ニ自己ノ義務履行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ

◎解除權行使ノ效力(一一)

第五百四十五條 [解除權行使ノ效力(一一)]

第五百三十三條 [雙務契約ト同時履行]

◎借地契約ノ解除ト建物抵當權ノ消長(第二續民法六一七條)

第五百五十六條 [賣買ノ一方ノ豫約ト其效力]

◎見本賣買ト品質適合ノ立證責任

見本賣買即見本ニ依リテ給付ノ目的物ヲ特定メタル賣買ニ於テ不特定物ノ給付ヲ目的トスルトキハ賣主ハ給付ノ物體カ見本ニ適合スルコトヲ確定スルモノナルヲ以テ買主カ給付ノ物體カ見本ニ適合セスト主張シ之カ引取ヲ拒ムトキハ賣主ニ於テ該物體カ見本ニ適合スルモノナルコトヲ證明セサルヘカラス(大審昭和二年民七〇二頁)

◎見本ニ依ル特定物賣買ノ效力(第二續民法五七〇條)

第五百六十八條 [強制競賣ノ場合ト追奪擔保ノ範圍]

◎本條權利ト競賣不動産ノ所有者ノ地位

競賣法ニ依ル競賣ナルモノハ強制競賣ニ關スル民法第五百六十八條ノ規定ノ準用アルヘキモノナレハ不動産所有者ハ最高價競賣申込人ト競賣ノ當事者タルヘク而シテ最高價競賣申込人ハ其

申出タル價格ニ付拘束ヲ受ケ不動産所有者ハ競落許可決定ニ依リ不動産ノ賣主ト爲リ代金ノ支拂ヲ受ケヘキ地位ニ在ルモノナルヲ以テ不動産所有者ノ此地位タルヤ原裁判所ノ謂フカ如ク單純ナル希望ト稱スヘキモノニアラス法律ニ依リテ保護セラレタル利益ナリト謂フニ何等ノ妨ナク從テ民法第七百九條ニ所謂權利アルニ該當スルモノトス(大審八年民一八一八頁)

第五百七十五條 [目的物ノ果實及代金ノ利息]

◎利息ノ支拂ト初日算入ノ適否(第二續民法五九〇條)

第六百一條 [貸借ノ意義]

◎都市ノ膨脹ト借地借家法ノ適用

一 借地法制定ノ趣旨並都市カ附近ノ土地ヲ併合スル實際上ノ事情ヲ觀察シテ之ヲ考慮スルトキハ大正十年勅令第二百七號ニ於ケル大阪市ハ勅令施行當時ニ於ケル行政區劃タル大阪市ノ地區ノミニ限定シタルニ非スシテ爾後行政法規ニ依リ擴張セラレタ

ル大阪市ノ地區ヲモ指稱スルモノト解スルヲ妥當ナリトス(大審昭和二年民七四一頁法二七九一號六頁)

二 法令ヲ以テ一定法律ノ施行地區ヲ定ムルニアタリ確定不動ナル一定ノ地區ヲ定メテ其ノ施行地區ト爲スコトアリ又其ノ施行ノ地區ヲ他ノ法令ニ依リ定マルヘキ法律事實ニ係ラシメ其ノ法律事實ノ變動ニヨリ自ラ其ノ施行ノ地區ニ變動ヲ來スカ如キ彈力性ヲ有セシムル場合アリ而シテ後者ノ場合ハ主トシテ一定ノ法律カ特別事情アル土地ニ施行セラレルコトヲ欲シ其ノ特別事情カ時ノ經過其ノ他ノ事情ニ依リ變動スルコトヲ免レサルカ故ニ其ノ變動ニ追隨シテ其ノ施行セラレンコトヲ期待スルニ因ルコト洵ニ明瞭ナル所ナリ從テ法律ノ施行地區ノ定メカ前者ナリヤ後者ナリヤノ疑義存スルトキハ宜シク其ノ施行セラレヘキ法律ノ趣旨ヲ考究シ施行地區ニ關スル法令ノ眞意ヲ明ニセサルヘカラス(同上)

三 本件ニ付之ヲ觀ルニ大正十年勅令第二百七號ハ大阪市ヲ借地法施行ノ地區ト定メタリ右勅令ニ所謂大阪市ハ該勅令施行當時ノ行政區劃タル大阪市ノ地區ヲ指稱スルノミナルヤ或ハ又現在並將來ニ於テ行政法規ニ依リ定マルヘキ行政區劃タル大阪市ノ地區ヲ指稱シタルモノナリヤ用語上必スシモ明白ナラスト雖借地法ハ本來主トシテ都市ニ於ケル特別ナル經濟事情ノ存スル區域ヲ制定セラレタルモノナレハ其ノ特別ナル經濟事情ノ存スル區域カ附近ノ土地ニ擴張シ之カ爲都市ニ於テ該附近ノ土地ヲ併合シ

タル如キ場合ニアリテハ特別經濟事情ノ變動ニ伴ヒ之ニ追隨シテ借地法ノ施行セラレヘキハ同法制度ノ趣旨ニ合スルモノト云ハサルヘカラス然リ而シテ都市カ附近ノ土地ヲ併合シテ其ノ區劃ヲ變更スル場合ニ付之ヲ觀ルニ其ノ併合ハ主トシテ附近ノ土地カ經濟事情ニ於テ都市ニ於ケル土地ト共通性ヲ有スルニ至リタルカ爲ナルコト都市ノ發達上顯著ナル所ニシテ附近ノ土地カ都市ニ併合セラレテ都市ノ他ノ土地ト同一自治團體ノ作用ニ服シ土地ノ經濟方面ニ於ケル關係ニ於テモ亦同様ナル地位ニ置カレヘキカ故ニ新ニ編入シタル土地ニ於テモ都市ノ舊地域ニ於ケルト同様ニ所謂特別ナル經濟事情ノ存スルモノト爲スヘク借地法ノ適用ニ付甲乙アルヘキ筋合ノモノニアラス(同上)

第六百十九條 [貸借更新ノ推定]

◎賃貸建物ノ賣買ト敷金トノ關係

一 敷金ナルモノハ賃借人ニ於テ債務不履行アルトキ當然之ヲ賃料ノ辨濟ニ充當スヘク若其ノ不履行ナキ時ハ貸借終了ノ際之ヲ返還スヘキモノナルカ故ニ借家法第一條ノ規定ニ依リ舊所有者トノ貸借借力其ノ賃借家屋ノ所有權ヲ取得シタル新所有者ニ對シ其ノ效力ヲ有シ賃借借力依然存続スル場合ニハ舊所有者ニ

差入レタル數金ハ舊所有者ニ賃料ノ延滞ナキ限り當然所有權ノ移轉ト同時ニ新所有者ニ移轉シ該貸借ノ終了セサル以上之カ返還ヲ求メ得ヘキ者ニ非ス從テ斯ル場合ニハ右數金ニ相當スル金額ヲ舊所有者ヨリ新所有者ニ引繼キ新所有者ノ爲ニ擔保ノ效力ヲ保有セシムヘキ者トス(大審昭和二年報一三七號一一頁)

二 數金ハ貸借契約ノ要素ニ非シテ特約ニ因ル擔保關係タルニ過キサルヲ以テ貸借家屋ノ所有權移轉ノトキ新所有者ニ移轉スヘキ數金存スル場合ニ於テモ新所有者ニ於テ數金ノ差入ヲ不用ナリトスルトキハ新所有者ハ數金ヲ承繼スルコトナキ者ナレハ其ノ貸借借終了ノ場合ニ之カ返還義務ヲ負フヘキニ非サルコト勿論ナリ故ニ新所有者ニ於テ數金ヲ承繼スルコトナシトシ從テ貸借借終了スルモ新所有者ニ數金返還ノ義務ナシトスルニハ宜シク右ノ如キ之ヲ不用ト爲シタル事實アルカ又ハ前所有者ニ於テ延滞賃料ニ充當シ剩餘ナカリシコトヲ明ニセサルヘカラス(同上)

三 原審ハ本件ニ於テ斯ル事實ノ有無ニ付何等確定スル所ナク漫然數金ハ貸借借ノ内容ヲ爲スモノニ非サルニ因リ被上告人ニ於テ貸借家屋ノ所有權ヲ取得シテ上告人トノ間ニ賃借關係存續シタリトスルモ其ノ賃借借ノ爲ニ上告人カ舊所有者ニ差入レタル數金ニ付被上告人カ返還義務ヲ負フコトナシトシ上告人ノ請求ヲ棄却シタルハ審理不盡又ハ理由不備ノ不法アルモノトス(同上)

○貸借建物ノ賣買ト數金トノ關係(第二續民法六一九條)

第六百四十三條 [委任ノ意義]

○子ノ監護教育委託ノ性質(第二續民法八七八頁)

第七百九條 [不法行爲ノ意義及賠償責任]

○不法行爲ト其ノ主格當事者

材木商甲カ其買受ケタル材木ヲ自己ノ往來ニ面セル軒先ニ立掛ケ置キタル場合ニ之カ傾倒ヲ防ク方法ヲ講セザリシ爲メ其材木カ倒レ折柄同所通行中ノ乙ニ當リ乙カ眞傷ヲ受ケタルトキハ賣主タル丙ヨリ該材木ノ未タ引渡ヲ了セザリシモノナリシト否トヲ問ハス甲ニ過失アルモノニシテ甲ハ損害賠償ノ責ヲ免レ得サルモノトス(東京地八年評論八卷民法一三〇一頁)

○虛偽ノ陳述ニ關スル過失ノ有無
放火ノ教唆ヲ爲シタルコトヲ認ムヘキ證據十分ナラストシテ言

○實父及嫡母アル場合ノ縁組ノ承諾

實父ト嫡母ト有ル十五年未滿ノ庶子カ養子縁組ノ場合實父ノミニ於テ縁組ノ承諾ヲ爲シタルモノハ民法第八五一條第二號ニ依ル縁組ノ無効ニ相當ス(法務局長回答七年民一三八八號)

第八百五十六條 [配偶者ノ不同意ト縁組ノ取消]

○配偶者一方ノ取消原因ト雙方ノ取消

民法第八百七十六條ニハ夫婦カ養子ト爲リタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其ノ選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要スル旨規定シアリテ夫婦養子ト爲リタル妻ニ付離縁アリタル場合ニ於ケル事後ノ關係ニ付規定シアルニ拘ラス夫婦養子ト爲リタル妻ニ付縁組ノ取消アリタル場合ニ於ケル事後ノ關係ニ付民法カ何等ノ規定ヲ設ケザリシ趣旨ニ照スモ夫婦養子ノ一方ニ付取消ノ原因アルトキハ其ノ雙方ニ付養子縁組ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルモノト論斷セサルヘカラス(大審一五年民七一八頁)

第八百六十四條 [離縁届出ノ方式及效力]

○重過失アリヤ否ヤノ實例

横領ノ所爲ニ付結局無罪ノ言渡ヲ受ケタリトスルモ當初第一ニ審共有罪ノ宣告ヲ受ケタル以上横領ノ所爲アリタル嫌疑十分ニ存シタルモノニシテ該被害者カ右横領ノ告訴ヲ提起セルニ付惡意若ハ重大ナル過失アリタルモノト認ムルヲ得サルモノトス(甲府地一四年評論一四卷民法二九二頁)

第八百四十三條 [十五年未滿ノ者ノ縁組]

◎養親死亡前ノ離縁ト死亡後ノ届出(諸法令上卷四五九頁)

第九百八條 [後見人ノ缺格]

◎後見人ノ任務ニ堪ヘサル場合(一)

- 一 後見人ハ其ノ就職後遲滞ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ一ヶ月内ニ其ノ目錄ヲ調製スルヲ要シ又後見監督人ノ缺ケタルトキハ遲滞ナク親族會ヲ召集シテ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要スルハ後見人カ後見事務トシテ爲ササルヘカラサル法律上ノ義務ナルカ故ニ之ヲ遲延シタル一事必スシモ後見人ノ任務ニ堪ヘサルモノト爲ルコトナキハ勿論ナリト雖若ク之ヲ爲ササリシコトカ職務ノ曠廢ト認メラルル場合ニ於テハ反對ノ事情存セサル限リ後見人ノ任務ニ堪ヘサルモノトシテ民法第九〇八條第八號ニ該當シ後見人免職ノ事由ト爲リ得ヘキモノトス(大審一三年評論一四卷民法一七頁)
- 二 後見人甲カ大正五年四月二日未成年者乙ノ後見人ニ就職シタル後現時ニ至ル迄被後見人ノ財産目錄ヲ調製セズ又大正九年中後見監督人丙カ死亡シタルニ未タ後任ノ後見監督人選任ノ手續ヲ爲ササルニ拘ラス此ノ間ニ被後見人ノ財産ヲ賣却シタル場合ノ如キハ其ノ職務ヲ曠廢スルコトノ甚シキモノト云ハサルヘ

九〇八條

一三三八

カラサルヲ以テ反對ノ事情存セサル限リ之ヲ以テ後見人ノ任務ニ堪ヘサル事跡ト爲シ得ヘキモノトス(同上)

三 叙上ノ場合ニ於テ後見人カ被後見人ノ實父ニシテ被後見人ノ財産カ多額複雑ナラストノ事情アリトスルモ尙モ財産ノ存スル以上目錄ノ調製ヲ要スルハ勿論後見監督人ノ缺ケタルトキハ後任後見監督人ノ選任ヲ要スルモノナルカ故ニ之ヲ以テ後見ノ任務ニ堪ヘサルニアラサル特別ノ事情ト爲スコト能ハサルモノトス(同上)

四 後見人カ被後見人ノ財産目錄調製ノ責務ヲ負フ所以ノモノハ後見人ニ於テ被後見人ノ財産ヲ管理シ之ニ關スル法律行為ニ付キ被後見人ヲ代理スルノ權利義務ヲ有シ而テ之ヲ完全ニ遂行セシカ爲メ被後見人ノ財産狀態ヲ明確ナラシムル必要アルカ爲メナルコトハ民法第九百七十七條第九百二十三條ニ徵シ明ナルヲ以テ財産目錄調製ノ有無又ハ調製シタル目錄ノ内容カ備ハルト否トハ後見事務ノ遂行ニ付キ至大ノ關係アルモノト謂フ可ク從テ後見人カ之ヲ調製セサル場合ニ於テハ其事由ノ如何ニヨリテハ之ヲ以テ後見人カ其任務ニ堪ヘサルノ事跡アリト判定スルノ資料ト爲スニ妨ナシ然ラハ我民法ノ解釋上同第九百七十七條第三項ノ如キ免職ニ關スル特別ノ條規存スルノ故ヲ以テ同第九百八條第八號ニ所謂後見人ノ任務ニ堪ヘサル事跡中ニ如上財産目錄不調製ノ場合ヲ包含セスト論シ得キニ非ス(函館控九年法一七四〇號一五頁)

◎親族會員ト任務ニ堪ヘサル不正行爲(第二續民法九四六條)

◎後見人ノ任務ニ堪ヘサル場合(二)

- 一 後見就職ノ際遲滞ナク財産目錄ヲ作成セス又後見監督人選任ノ手續ヲ爲サス且被後見人ノ土地建物立木等ヲ親族會ノ同意ヲ得ス賣却シタルトスルモ被後見人ノ財産カ多額複雑ノモノニアラス且控訴人カ被後見人ノ實父ナルヨリ偶々嚴格ナル法定ノ手續ヲ履踐スルコトヲ遲延シ居ルニ過キサル事情ヲ窺知スルニ難カラサルカ故ニ多少斟酌スヘキ特別ノ事情ノ存在スル限リハ被控訴人主張ノ各事實ハ之ヲ綜合スルモ未タ後見免職ノ事由タル後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡アルモノト謂フヲ得ス(東京控一三年法二二八二號二〇頁)
- 二 丙カ甲ニ於テ丁ノ名義ト爲シ置キタル不動産ヲ相續人乙ノ所有名義ニ回復スルコトナク便宜上戊ノ名義ニ移轉シタルモ其間私意私慾ノ挾マレタルモノナク又其家及相續人ニ不利益ヲ與ヘントスルノ目的ニ出テタルニ非ス却テ其利益ヲ擁護スル爲メ同家ノ家屋ト家名トヲ保持セントノ衷情ニ基クモノナルトキハ右賣買並ニ之ニ基ク所有權移轉登記ヲ不正ナリト目シ得ヘカラサルヲ以テ丙カ後見人トシテ其職務ヲ執行ヲ怠リ又ハ不當ニ之ヲ執行セス依テ其任務ニ堪ヘサル事跡アリト爲シ能ハサルモノトス(函館控九年評論九卷民法八六三頁)
- 三 丙ノ賣買行為カ甲ノ相續人乙ノ未タ選定セラレサル以前ニ行

第二續民法 補遺

九〇八條

九二九條

一三三九

◎親族會ノ同意ナキ訴訟行為ノ效力

一 親族會ノ同意ヲ得シテ未成年者ニ代リテ爲シタル訴訟行為

第九百二十九條 [重大行為ト親族會同意]

◎後見人ノ家督相續届ト同意ノ要否(諸法令上卷四四七頁)

ハレタルモ右ハ早晚乙ニ於テ消却セサル可カラサル債務ノ辨濟資金ヲ得シカ爲メニ企畫セラレ其家ノ家財ヲ整理スル目的ヲ以テ遂行セラレタル機宜ノ處置ナレハ丙カ右賣買ニ關與シタルハトテ丙ニ於テ民法第九〇八條ニ所謂不正ノ行為ヲ爲シタルモノト謂ヒ得サルハ勿論丙カ後見人ノ任務ニ堪ヘサル事跡アリト論スルヲ得サルモノトス(函館控九年評論九卷八六二頁)

四 財産目錄ノ調製カ後見人ニ就職後約三ヶ月以後ノ事ニ屬シ民法第九一七條所定ノ期間ヲ經過シ居ルト雖モ右ニ付キテハ親族會員及後見監督人ニ於テモ之ヲ認許シ且家産ノ整理方法等ニ關シ親族間ニ協議ヲ重テ居リシカ爲メ遂ニ日時ヲ遷延スルノ止ムナキニ至リシ場合ハ未タ後見人ノ財産目錄調成ノ義務ニ違背シタルモノトシ其任務ニ堪ヘサル事跡アリトノ資料ト爲スニ足ラス(函館控九年評論九卷民法八六二頁)

ハ法律上代理人ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ欠缺アル
モノニシテ斯ル親族會ノ同意ナキ後見人ノ訴訟行爲ハ不適法ト
シテ法律上ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス (大審一〇年民八
八一頁)

◎同旨 (大審一二年法二三五四號二一頁)

二 後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲ニ爲シタル訴
訟行爲又ハ適法ノ法定代理人ニアラサル者カ代理人トシテ爲シ
タル訴訟行爲ハ固ヨリ効ナキモノナルモ上告審ニ至リ該後見人
カ親族會ノ同意ヲ受ケ又ハ法定代理權ナキ者ノ爲シタル訴訟行
爲ヲ本人ニ於テ追認スルニ於テハ既往ノ授權又ハ代理ノ欠缺ハ
之カ爲ニ補正セラレ訴訟行爲ハ當初ニ適リ有效トナルモノトス
(大審一五年法二六〇七號一四頁)

第九百七十三條 (増養子ノ相續權)

◎民法前ノ養嗣子ト本條ノ適用

民法施行前ニ於テ養嗣子ト爲リタル者カ家女ト婚姻シタル場合
ニ於テハ民法九七三條ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス
(東京控一五年評論一五卷民法二五八頁)

第九百七十五條 (相續人廢除ノ原因)

◎廢嫡ヲ目的トスル離籍ノ效力 (第二續民法七四二條)

第九百八十八條 (被相續人ノ財産留保)

◎財産留保ニ關スル錯誤ト隱居ノ效力 (第二續民法九五條)

第一千十七條 (承認拋棄ノ期間及相續財産ノ調査)

◎相續ノ承認拋棄ハ法律行爲也 (第二續民法九二九條)

第一千五十一條 (欠缺セル相續財産主體ノ設定)

◎相續財産ノ皆無ト絶家ノ時期 (第二續民法七六四條)

昭和三年三月十二日 印刷

昭和三年三月十五日 發行

昭和七年六月十日 十四版

判決總攬・第二續民法

正價金十一圓



編輯者 半田 鍵次郎

發行者 名古屋市東區關銀治町二丁目五番地

正 田 正 一

名古屋市東區關銀治町二丁目五番地
判決例調査所印刷部

印刷者 半 田 賢 一

發賣元

東京市本郷區
駒込淺嘉町五〇

電話小石川六三六八番
振替東京二四八九九番

酒 井 書 店

取次店

東京神田
一橋通町 有斐閣

東京神田
朝鮮京城 巖松堂

大阪北區
區堂島 法政書房

大阪北區
曾根崎 大同書院

發行所

名古屋市東區
關銀治町二丁目

電話東(4)區二二三二番
振替名古屋五九二番

判決例調査所

判 決 例 調 查 所 發 行 書 目

判 決 總 攬 續 民 事 訴 訟 法	判 決 總 攬 民 事 訴 訟 法	判 決 總 攬 續 刑 法	判 決 總 攬 刑 法	判 決 總 攬 第 二 續 商 法	判 決 總 攬 續 商 法	判 決 總 攬 商 法	判 決 總 攬 第 二 續 民 法	判 決 總 攬 續 民 法	判 決 總 攬 民 法
版三	版三	版六	版七	版九	版五	版三	版三	版五	版五
金八圓五十錢	金四圓八十錢	金六圓五十錢	金二圓五十錢	金六圓五十錢	金六圓八十錢	金三圓五十錢	金十一圓	金六圓五十錢	金四圓五十錢
送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料
△四十五錢	△六十三錢	△六十三錢	△四十九錢	△六十三錢	△六十三錢	△四十九錢	△七十五錢	△六十三錢	△六十三錢

◎判 決 總 攬

送料ノ

△印八內地
△印八臺鮮滿樺

目書行發所查調例決判

大審院 民事 破毀 棄却 判例集 大正年間 大索引附 版七 金八圓五十錢 送料 △四十五錢

◎其の他

法規詳覽 民事訴訟法	再版	金一圓五十錢	送料 <small>△四十九錢</small>
法規詳覽 刑事訴訟法	再版	金一圓五十錢	送料 <small>△四十九錢</small>
書入六法 民法	初版	金一圓五十錢	送料 <small>△四十九錢</small>
書入六法 商法	初版	金一圓	送料 <small>△四十九錢</small>
書入六法 民事訴訟法	初版	金一圓五十錢	送料 <small>△四十九錢</small>
書入六法 刑事訴訟法	再版	金一圓	送料 <small>△四十九錢</small>
正文 民事訴訟法	四版	金六十錢	送料 <small>△四錢</small>

◎御注文は

發賣書店又は大取次書店へねがいます

終